

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・一般県道三重新殿線(内田赤嶺工区)等のアクセス道路の供用開始により、高速ICへのアクセス強化とともに、交通安全対策が図られている。
②	・連続立体交差事業に伴うJR大分駅の全線高架化とともに、南北自由通路化など機能面の向上が進み、大分駅の乗降客が平成23年度と比べ5%増加した。
③	指標により評価
④	・フェリー航路の車両利用台数は、近年減少傾向が続いていたが、23年度からのフェリー航路活性化緊急対策事業の実施により、25年度には事業開始前の平成22年度と比較して105.6%となっており、本県への誘客促進にもつながっている。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	(公)国直轄道路事業負担金	1,527,270	継続	217
	(公)道路改良事業	18,070,562	継続	218
	(公)国直轄高速道路事業負担金	2,154,521	継続	221
②	(公)連続立体交差事業	392,361	終了	225
③	国際航空路線開設・定着化促進事業	35,500	継続	26
	国内航空路線拡充・定着化促進事業	41,606	継続	27
	大分空港活性化事業	7,877	継続	28
④	フェリー航路活性化緊急対策事業	59,000	廃止	29

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○東九州自動車道建設促進協議会による本省要望 (H25.11)</p> <p>・東九州自動車道は生活の道、活力の道、そして命の道としての役割が期待される高規格幹線道路であり、その全線開通は東九州地域900万人を超える沿線住民にとって悲願であることから、一日も早い全線開通を目指し、東九州軸推進機構と共催で開かれる1000人規模の地方大会を北九州市で開催、秋には東京で中央大会を開き、関係機関への要望を行った。</p> <p>○大分経済界等による中九州横断道路の要望 (H25.20)</p> <p>・中九州横断道路は大分市から熊本市に至る約120kmの地域高規格道路であり、九州の一体的な発展を図るために必要不可欠な道路であることから、大分県経済5団体と女性の会が国土交通省、財務省、国会議員に対し、早期整備を要望した。</p>	<p>○全日本海員組合九州関門地方支部知事要望 (H25.4)</p> <p>・フェリーは、海上の公共交通機関としての重要な役割と大規模災害時におけるライフラインを担っていることを再認識し、事業継続に必要な経費等の具体的な支援策を講じていただきたい。</p>
---	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・国との連携をとりながら、循環型高速交通ネットワークの早期完成を図る。 ・空港アクセスの改善や大分空港利用促進策に、行政と関係団体、経済団体が一体となって取り組む。 ・ソウル線の安定的な運航を維持するとともに、運航ダイヤの改善などを通して、国際航空路線の拡充・定着化に取り組む。 ・大分ー成田便および平成26年10月に新規就航する大分ー関空線を利用する新規旅行者需要の掘り起こしに向け、航空会社や他の交通事業者と連携して誘客に取り組むとともに、航空会社に対して新規路線の開設を働きかけることにより航空路線の拡充を図る。 ・本県への誘客につながるフェリー事業者の取組に対して補助金を交付することにより、自家用車・トラック等のフェリー利用を促進し、フェリーへのモーダルシフトを推進するとともに、フェリー航路の維持・活性化を図る。